



みちくさ

2016. 6. 23 No. 26

「教育実習生にエールを！」

今、宮城教育大学から教育実習生が3名（うち教職大学院生1名）実習に励んでいます。教員免許状を取得するためには、必ず現場での実習が課せられています。基本的に大学側から要請があった場合には、何人でも受け入れるというのが私の考えです。ただ、担当する職員には、負担増になるので申し訳ないとは思っています。でも仙台の子どもたちを育てていく将来の人材育成ですから、大事にしていきたいという気持ちがあります。

とかく授業のことを考えると指導の技術だけ気になってしまうけれど、指導技術は教員になってからでも十分に学ぶ機会はあるから、実習期間でしかできない体験を積んでいって欲しいと、実習生には話しました。一人一人の子どもたちにじっくり向き合って欲しいし、教員の仕事は学習指導だけではなく、いろいろな場面で、多岐にわたっていることを、実感して欲しいと思います。



ところで、38年前、私も秋田市の明德小学校という、ちょうど片平のような伝統校で実習を積みました。その際に担当していただいた先生のことを、今でも忘れることができません。実習期間中、先生たちの教科にかかわる研究会があり、その日は子どもは休みになるため、我々実習生も休みになりました。その先生は、敢えて学生である私に声をかけてくれ、その研究会に参加をさせてくれたのです。公民館のようなところに、理科の先生だけが集まり、熱く教材や指導に対して激論を交わす教師の姿を目の当たりにしました。型どおりの実習では学べない体験をさせていただき、私の教職に対する思いがその頃から変わったように思います。



こんなこともありました。6年生の理科で、「中和」という学習がありました。（現在は小学校では扱っていません。）酸性の水溶液に同濃度のアルカリ性の水溶液を混ぜていくと、溶液は中性になるのですが、これを実際に実験で行うのは大変難しいのです。子どもたちの実験ではなかなか上手くいきません。そこで、先生が演示実験でやってみせました。同じ濃度の溶液を慎重に混ぜていき、見事に中性になったとき（赤、青のリトマス紙は共に変化しません）、子どもたちから「おっー」というどよめきが起こりました。その後は、どのグループも、必死で先生がやって見せたように実験に集中しました。実は後から種明かしされたのですが、先生は混ぜた水溶液にリトマス紙をつけるとき、水溶液を手元に置いておいた水の入った試験管とすり替えたのです。これでは中性になるのが当たり前ですね。実習生だった私自身も見事にだまされました。こういう手品まがいなことをしたことは賛否両論あると思いますが、子どもたち

の実験の取り組み姿勢が大きく変わったことは事実でした。子どもたちは、先生からのちょっとした励ましをもらうことで、頑張れるようになるのです。こういうことは学習や生活の場面でたくさんあります。教師という仕事の素晴らしさは、単に学習を教えるだけではなく、子どもたちの背中をちょっとだけ押して元気づけてあげられるような、そんな力ももっていることです。私は今年度で教職から退きますが、もっともっといろいろな子どもたちと接したかったなあと、今更ながら欲張りな気持ちが残っています。でも若い人たちがどんどん育ってきていますから、大いに期待したいところです。

大学との共同研究で支援をいただいております

昨年度より東北学院大学の稲垣准教授との共同研究を進めており、タブレット端末をメーカーの支援もあって20台お借りすることができ、子どもたちが学習に利用を始めています。加えて、今年度より、東北大学の篠澤准教授との共同研究も始まり、新たにタブレット端末を9台、さらに教師が授業で利用できる実物投影機などをお借りし、子どもたちの授業に役立てていくことができるようになりました。

現在、国の方で審議されている新しい学習指導要領では、全ての教科で普通にICT機器を利用して学習活動に利用していくようになると言われております。本校では、大学との共同研究のおかげで、いち早く取り組むことができしております。

教師が授業で利用していくというのはもちろんですが、それよりも、積極的に子どもたちの利用を想定しております。例えば、体育の時間、跳び箱の練習をするときに、互いにビデオ撮影し、すぐにスロー画面で手のつく場所を確認するといったことが普通に出来ます。生活科で町探検に出かけたときには、写真を撮影してくることはもちろん、町の人にインタビューをしている様子をビデオ

撮影することも可能です。これまでデジタルカメラやビデオカメラを使うのと同じでは？と思われませんが、素材をすぐにメンバー全員で確認したり、その場で地図に写真を貼り付ける加工をしたりできます。今まで以上にコミュニケーションが深まったり、表現力が広がったりすることも事実です。

子どもたちの理解のスピードは早いですね。でも考えてみると、今のご家庭でも利用しているケースが多いので、使えるのが当たり前なのかも知れません。教師が後に取り残されないよう、しっかりと研修

をしているところです。

